



文は



人なり

かずみん現役引退。オリンピック卓球女子の銀メダリスト石川佳純さんのことだ。アグレッシブな競技スタイルに愛くるしい笑顔。現役時代の彼女に魅了された人も多かろう。昨年5月の引退後、全国各地の子どもたちに卓球を教える回をサンクスツアーに彼女はいった。2022年4月に福島県を皮切りにスタートしたこのツアーだが、「スポーツの魅力」と「ファンへの感謝」という理念は、他の競技のこの手のツアーと大同小異であるが、卓球に親んでもらうことや競技を普及させること以上に、彼女は「入り口」の大切さを説いた。

「人生うれしいことや楽しいことはかりじゃない。苦しいことや不安なことがいっぱいあるけれど、新しい入り口から飛び込んでみる勇気を忘れ

7歳で卓球を始めた。飽きっぽい性格ゆえに、物事を続けるのは大の苦手。だが、卓球をやったみたら楽しくて、ラリーが続くようになると面白い。ある日、さほは倍増した。ある日、今までも勝てるようになった相手に勝てるようになったと持ち前の負けん気に火がついた。生まれ育った山口市を離れて、大阪の中学校へスポーツ留学。その決断は人生で「大きな一歩」、そして世界に羽ばたく「入り口」となったのだ。

イベントでは小学生たちの質問攻めに遭うのが常だが、彼女が必ず語るのはチャレンジ精神の尊さ。ある日、進学を控えている約4000人の小学6年生に向けて言った。

「人生うれしいことや楽しいことはかりじゃない。苦しいことや不安なことがいっぱいあるけれど、新しい入り口から飛び込んでみる勇気を忘れ

女性を口説くように

ないでほしい」。そして、2年にわたるサンクスツアーは4月に大分県内ツアアは4月に大分県内

「好きなことと幕を閉じたが、日本全国どこに行っても子どもが思えるものに出合えるように、どんどん挑戦してほしい」。成長過程にあって迷い、葛藤する子どもたちの小さな背中をそっと押した。

この質問は飛んでくる。だろかなと思った。「やめたくなったこと、ありますか?」。屈託のない笑顔で、しかも快活に彼女が答えた。「何度もあります」と。頑張っても歯を食いしばって耐えても、結果が出ないことはいくらかもある。その度に自分に言い聞かせた言葉を超えろ。」「努力して言うけど、良い時も悪い時もとにかく続けることが大切なんです。キラと輝く瞳は、どこまでもまっすぐで、吸い込まれてしまいうるほど澄んでいる。

「運」とは口説くものというページで手が止まらない。天才肌ではないけれど、ど努力の天才だと自らを評する彼女が、大きな試合で勝利する瞬間には必ずピッチに立っていた。だから、「長谷部さんは運がいいですね」と言われることがある。多くは語らず、その度に彼はこう答えたという。「いいけれど、運がいいか運が悪いかが、結局それは自分の心が決めるのだ。まさに、思考は現実化する。」「努力して言うけど、良い時も悪い時もとにかく続けることが大切なんです。キラと輝く瞳は、どこまでもまっすぐで、吸い込まれてしまいうるほど澄んでいる。

「運」とは口説くものというページで手が止まらない。天才肌ではないけれど、ど努力の天才だと自らを評する彼女が、大きな試合で勝利する瞬間には必ずピッチに立っていた。だから、「長谷部さんは運がいいですね」と言われることがある。多くは語らず、その度に彼はこう答えたという。「いいけれど、運がいいか運が悪いかが、結局それは自分の心が決めるのだ。まさに、思考は現実化する。」「努力して言うけど、良い時も悪い時もとにかく続けることが大切なんです。キラと輝く瞳は、どこまでもまっすぐで、吸い込まれてしまいうるほど澄んでいる。